

東北地方 1か月予報

(6月11日から7月10日までの天候見通し)

平成17年6月10日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

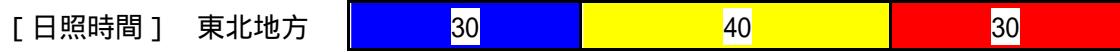
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か低い、3～4週目は平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

1か月 : 6月11日(土)～7月10日(日)

1週目 : 6月11日(土)～6月17日(金)

2週目 : 6月18日(土)～6月24日(金)

3～4週目 : 6月25日(土)～7月8日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は6月17日

3か月予報：6月23日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	18.3	182.4	136.4	17.2	17.8	18.9
新庄	19.7	171.7	135.9	18.7	19.2	20.3
若松	20.8	153.5	142.0	19.9	20.3	21.3
深浦	18.4	128.1	168.9	17.0	17.8	19.1
青森	18.1	92.2	171.3	16.9	17.5	18.8
むつ	16.7	122.6	149.1	15.5	16.0	17.3
八戸	17.2	117.5	158.1	16.1	16.5	17.8
秋田	20.0	165.8	162.3	18.7	19.5	20.6
盛岡	19.2	139.6	136.5	18.2	18.7	19.7
宮古	17.1	138.2	130.5	16.0	16.5	17.7
酒田	20.4	171.0	158.1	19.3	19.9	21.0
山形	20.5	128.4	136.3	19.6	19.9	21.1
仙台	19.3	167.2	112.2	18.3	18.7	19.8
石巻	18.6	134.0	130.4	17.6	18.1	19.2
福島	20.8	144.7	115.1	20.0	20.2	21.3
白河	19.4	196.0	107.5	18.4	18.7	19.9
小名浜	19.2	165.8	123.9	18.2	18.7	19.8

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.6~+0.5	87~115	92~108
東北日本海側	-0.5~+0.3	80~108	93~105
東北太平洋側	-0.6~+0.5	87~108	90~111

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.5	-0.6~+0.5	-0.5~+0.4
東北日本海側	-0.6~+0.3	-0.6~+0.4	-0.5~+0.5
東北太平洋側	-0.7~+0.7	-0.6~+0.5	-0.7~+0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。

階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成17年6月10日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(6月11日~7月10日):

前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(6月11日~6月17日):

期間のはじめと終わりは前線や気圧の谷の影響で曇りや雨ですが、期間の中頃は、高気圧におわれ晴れる日があるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(6月18日~6月24日):

前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。一時低温となる見込みです。

平均気温は平年並か低いでしょう。

3~4週目(6月25日~7月8日):

前線やオホーツク海高気圧の影響で、東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

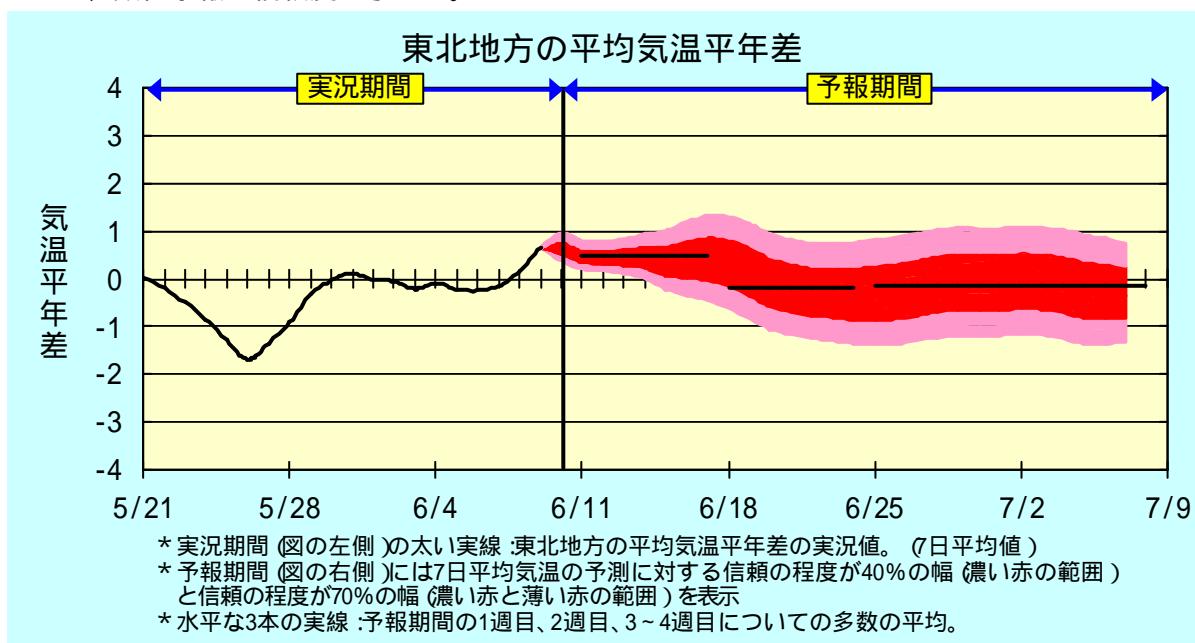
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	12.1日	3.6日	2.9日	5.6日
東北太平洋側	9.9日	3.1日	2.3日	4.5日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目とも「平年並」と予測している。予報は、その他の資料から2週目を「平年並か低い」とする。

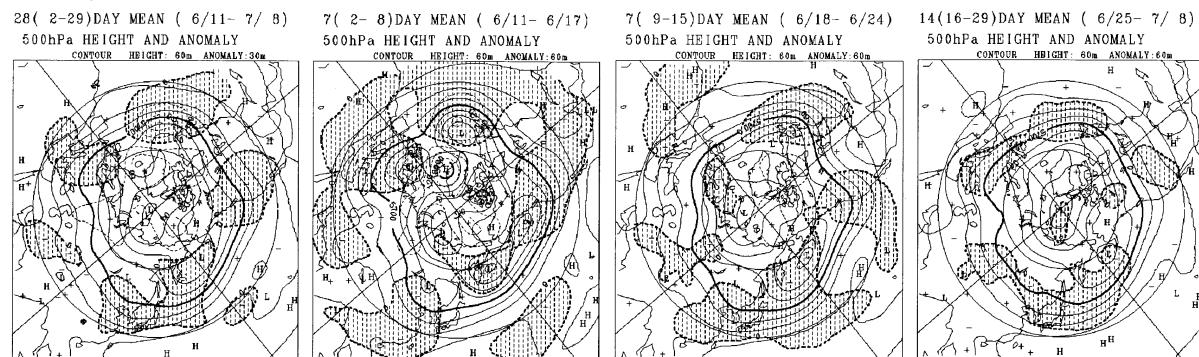
なお、数値予報の信頼度は小さい。



3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

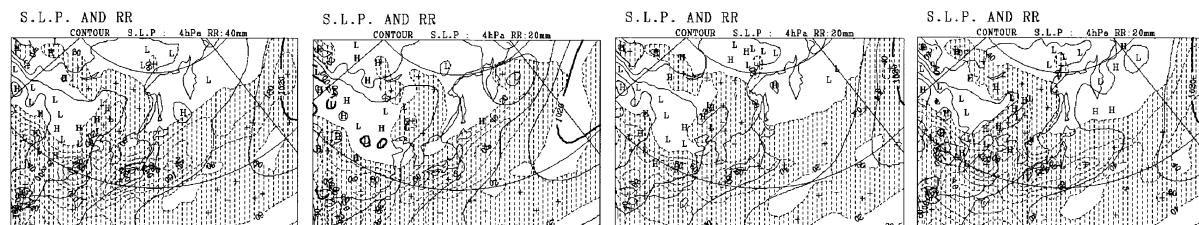
500hPa 高度と偏差：

月平均では、アリューシャンから日本付近、華北にかけて負偏差で太平洋高気圧の日本への張り出しが弱い。東シベリアでは偏西風の分流が見られる。1週目は日本付近で正偏差、中国付近で負偏差となり、偏西風は西南西・東北東の流れ。2週目は太平洋高気圧の日本への張り出しが弱く、太平洋中部から中国、アリューシャンにかけて広く負偏差。3~4週目はおおむね2週目と同様。



地上気圧と降水量：

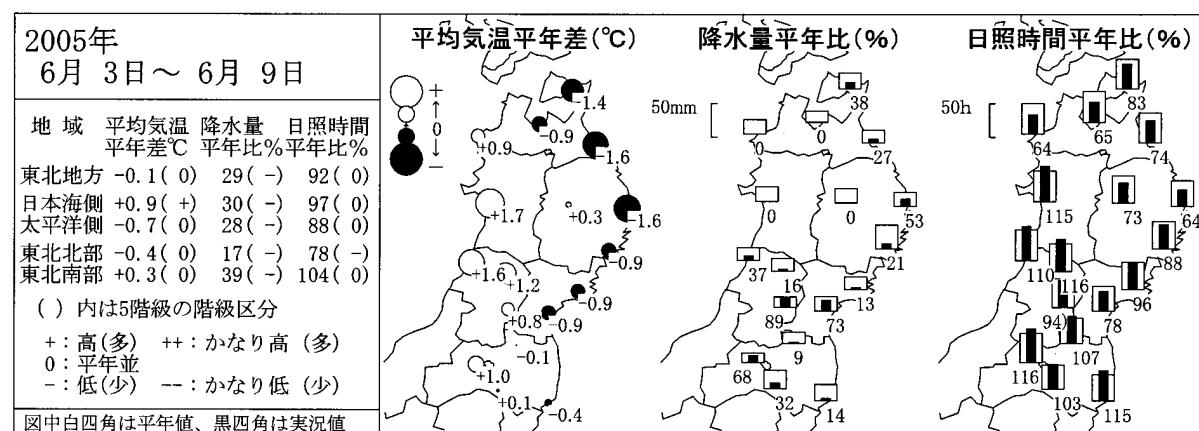
月平均では、太平洋高気圧の日本への張り出しが弱く、オホーツク海には高気圧が見られる。日本の南岸にまとまった降水域が予想されている。1週目は、日本の南岸から東海上にかけてまとまった降水域が見られ、東北地方にもかかっている。2週目は、太平洋高気圧の日本への張り出しが弱く、まとまった降水域は日本の南岸。3~4週目は2週目と同様に太平洋高気圧の張り出しが弱く、降水域は日本の南岸。また、オホーツク海付近には高圧部が見られる。



4. 最近1週間（6月3日~6月9日）の天候の経過

この期間、3日から5日にかけては低気圧や上空の寒気の影響で曇りや雨となるところがあった。4日はひょうを観測し、山形では農作物に被害がでた。6日は北偏した高気圧の影響で、東北北部では曇りのところがあったがその他の地域では晴れた。7日から9日にかけては高気圧に覆われて晴れた。

平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。降水量は東北地方で少ない。日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）